

石川県立美術館だより

平成17年7月1日発行 第261号

- 作陶55年記念 -

北出不二雄の世界

6月16日(木)~7月18日(月・祝)会期中無休
午前9時30分~午後5時(入館は午後4時30分まで)



青釉寂静台皿 1991年 北出不二雄

目次

- 作陶55年記念 - 北出不二雄の世界	2	ミュージアムレポート	5
近代の美術	3	展覧会回顧(石川県立美術館の精華)	5
古九谷・再興九谷名品展(前期)	3	企画展示室、各地の展覧会	6
今月のコレクション展示室 主な展示作品...	4	第2回美術館バスツアー報告、7月の行事案内...	7
映像ギャラリー	4	所蔵品紹介、親子で美術鑑賞をしませんか? ...	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

今月のコレクション展示室
(第5展示室)

特別陳列
- 作陶55年記念 -
北出不二雄の世界

6月16日(木)~7月18日(月・祝)



瑠璃金銀時絵林檎図飾皿 1950年
北出不二雄

当館では昨年「古九谷へのまなざし 昭和・平成の名工たち」と題した特別陳列を開催し、古九谷への熱いまなざしを創作の原点とした名工三十三人の作品を展示しました。北出不二雄氏が、その中でも重要な作家と位置付けられたように、古九谷から今日に至る九谷焼の伝統は、北出氏を抜きに語る事ができません。そこで、昨年の特別陳列を総論とするならば、今回の「北出不二雄の世界」は各論として、古九谷の伝統に生きるとはどのようなことなのかについて、北出氏の陶芸家、古九谷研究者としての歩みをおおしてじっくりと考えていただく機会となる事ができればと考えています。

昨年の「古九谷へのまなざし」で再認識することができたように、古九谷の伝統はイノベーションの精神と要約できます。それは、単なる古典の模倣ではなく、時代の最先端の美意識を、古典との明確な位置付けにおいて捉え、その表現の担い手となる新たな技法を開発することです。

今回は、金沢21世紀美術館、石川県九谷焼美術館ほか所蔵者のご厚意により、当館の所蔵品に加えて初期から近年までの北出氏の作陶の歩みを三十四点の作品により概観します。そこでは彩釉陶をはじめ、北出氏の作品には古九谷の精神が力強く脈打っていることを確認していただくことができます。

そして今回は非注目していただきたいのは、北出氏在实际に古九谷によってどのような美意識を育んでいったのかを、北出氏自身が選定した当館所蔵の古九谷の展示をおおして跡づけることを展覧会の大きな趣旨としている点です。本展では通常は第2展示室に展示されている古九谷の名品十一点が、北出不二雄氏の美意識・造形思考という切り口で、北出氏のコメントを添えて展示されます。さらに今回は、古九谷愛好家の

方々からの要望にも配慮して、裏面や側面も鑑賞していただけるようにします。

また、ペルシャ陶器や富本憲吉の作品、再興九谷の吉田屋窯など、古九谷の他に北出氏にとって重要な意味を持つ作品や、スケッチブックも併せて展示します。

主な展示作品

作陶の歩み

瑠璃金銀時絵林檎図飾皿

色絵瑞鳥文花瓶

色絵旅路飾皿

染付加彩長壺

彩釉線刻 鳥たち

青手小禽文飾皿

赤絵初夏壺

青釉刻線鷲文壺「独り」

彩釉陶 暮れる蓮池

北出氏選定の当館蔵古九谷・吉田屋

県文 色絵鶉草花図平鉢

色絵海老藻文平鉢

県文 青手桜花散文平鉢

県文 青手樹木図平鉢

重美・県文 色絵布袋図平鉢

県文 色絵鳳凰図平鉢

県文 色絵百花散双鳥図平鉢

色絵唐子山水図平鉢

色絵壺割花鳥図平鉢

青手松鳥図平鉢

色絵石畳双鳳文平鉢

色絵万年青図平鉢 吉田屋窯

石川県九谷焼美術館蔵

石川県九谷焼美術館蔵

金沢21世紀美術館蔵

石川県立美術館蔵

石川県立美術館蔵

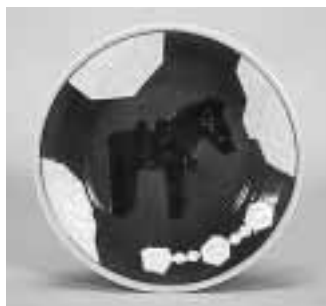
石川県立美術館蔵

石川県立美術館蔵

石川県立美術館蔵



県文 色絵鳳凰図平鉢 古九谷



染付填輪飾皿 2001年 北出不二雄



色絵菩薩図飾皿 1963年 北出不二雄

今月のコレクション展示室

(前田育徳会展示室)

特集

近代の美術

6月21日(火)~7月18日(月・祝)



河岸の荷揚所図 アルマン・ギョーマン

前田育徳会の所蔵する文化財は、その大半が歴代藩主の収集あるいは使用したもので、どちらかといえば古美術というイメージが強い、その中であって、明治に入ってからヨーロッパや日本の、近代絵画や彫刻も収蔵されています。

今回展示する西洋絵画のコレクションは、明治四十三年、明治天皇・皇后両陛下の本郷邸への行幸に際して、当時の十六代当主利為によって、新築した洋館を飾るために収集されたものが中心です。これらの絵画は、主に日本とヨーロッパの美術交流に多大な功績を残したことで知られる画商の林忠正が、フランス滞在中に収集した三百余点の中から、日本近代洋画の父ともいわれる黒田清輝やフランスで室内装飾を学んだ野口駿尾らによって選ばれたものが中心です。こうして収集された作品は、大きく二つのグループに分けられます。一方は、デュモン、ロッサノ、ル・デュックといった伝統的、あるいは保守的ともいえる描法による風景画、風俗画の類であり、もう一方はブーダン、ギョーマン、アマン・ジャンといった印象派に関係づけられる画家たちの作品です。この両者を見ると、今日では前者はほとんど忘れられた存在であり、これまでに数多く開催されてきた西洋絵画展の中でその名前を見いだすことは難しい。それに対して後者は、印象派に関連した展覧会で紹介され、親しまれています。

今回、こうした西洋絵画と合わせて、近代の日本画彫刻も展示しますが、米原雲海作「竹取翁」は明治四十三年第3回文展出品作であり、島田墨仙筆「塙保己一像」のように、昭和十六年第四回新文展に出品されたものを国が買い上げたために、あらためて揮毫してもらったものなど、作品の多くは官展系の作家のものであり、当時の前田家がそいつった作家たちのパトロンの存在であったことがうかがえます。今回は、前田家鎌倉別邸で使用されてきて、久方ぶりに展示する四点を含む西洋絵画十一点和日本画、彫刻等計二十三点を展示します。

古九谷と再興九谷の名品を二期に分けて公開します。四十九点を展示しますが、今号では、展示する窯の概要を紹介いたします。

古九谷は、明暦から宝永(十七世紀中頃~十八世紀初)の頃、山中温泉から大聖寺川を十数キロ上流に遡った九谷の地で焼成された色絵磁器をいいます。古窯の発掘調査は、昭和四十五年より五次にわたって行われ、五十四年には国の史跡に指定されています。

古九谷窯廃絶後、加賀の地で窯業再興の先駆けとなった一つが、文化四年に開窯した金沢の春日山窯です。京都から青木木米が指導に訪れ、木米好みの中国趣味を反映したやきものが焼かれました。この窯は文政初年頃に廃窯になりますが、それを惜しんで操業されたのが加賀藩士武田秀平(号民山)によって、文政五年に開かれた赤絵細描を特色とする民山窯です。いずれも金沢地区での開窯です。

能美・小松地区で先鞭をつけたのが文政二年頃開窯の若杉窯です。藩の保護奨励もあって興隆し、いわゆる殖産興業の量産方式による日用雑器が中心に焼かれます。また文政二年には本多貞吉に陶法を学んだ藪六右衛門開窯の小野窯、弘化四年小松の松屋菊三郎が主宰した蓮代寺窯、幕末から明治初頭にかけて、華麗な彩色金襴手の技法で一世を風靡した九谷庄三などが活躍しています。

他方、江沼地区で雄大な筆致、洪くて深く、しかも厚く彩られた豪放華麗な古九谷の再興をめざして、文政七年に開窯したのが吉田屋窯です。このほか、赤絵細描を特色とする、天保三年開窯の宮本屋窯、吉田屋窯の塗埋様式を踏襲する松山窯、金襴手で有名な永楽和全など今日の江沼九谷の流れが形成されます。

今日の九谷焼の源流となっている、これらの諸窯の特色と変遷を鑑賞下さい

今月のコレクション展示室

(第2展示室)

特集

古九谷・再興九谷名品展(前期)

6月16日(木)~7月18日(月・祝)



色絵四葉座十字文平鉢

今月のコレクション展示室 主な展示作品

第2～6展示室:6月16日(木)～7月18日(月・祝)
前田育徳会展示室:6月21日(火)～7月18日(月・祝)

● = 国宝 = 重要文化財
= 石川県指定文化財



パラダイス 清水鍊徳

一般 350円	個人	色絵罌粟大飾皿 沈金猫文「けはひ」 友禅訪問着「魚のむれ」 観覧料	海伝説 Lex Avenue	第6展示室(日本画・工芸)	第5展示室(工芸)	第3・4展示室(油彩画・素描・彫塑)	第2展示室	第1展示室	前田育徳会展示室	
大学生 280円									山林湖水の図 木彫雄雉鶏置物 梅見茶屋	特集 近代の美術
高校生以下は 無料									アルマン・ギョーマン 高村光雲 鍋木清方	
一般 280円	団体(20名以上)	富本憲吉 前大峰 木村雨山	梅川三省 中町力 畠山錦成	会期 中は、近現代工芸は第6展示室に展示します。	特別陳列 北出不二雄の世界 2ページをご覧下さい。「北出不二雄の世界」 第6展示室(日本画・工芸)	粟生屋源右衛門	古九谷・再興九谷名品展(前期)	色絵鶴かるた文平鉢 古九谷 色絵四葉座十字文平鉢 古九谷 色絵椿文六角四段重 吉田屋窯 色絵桐鳳凰文高卓	特集 古九谷・再興九谷名品展(前期)	
大学生 220円									望郷を歌う(故高英洋に) パラダイス フィードの女 版画 海山十題 彫塑 春葩 軍鶏	特集 古九谷・再興九谷名品展(前期)
高校生以下は 無料									友禅訪問着「魚のむれ」 観覧料	特集 古九谷・再興九谷名品展(前期)



Lex Avenue 中町 力



友禅訪問着「魚のむれ」
木村雨山



春葩
田中 昭

映像ギャラリー

今月の映画・ビデオ

7月3日(日) 月例映画会	
「墨龍 [加山又造]」	(27分)
「藤本能道の色絵磁器」	(33分)
7月10日(日) ビデオ鑑賞会	
「正倉院宝物1 東西文化の国際交流」	(34分)
「正倉院宝物2 千二百年の宝庫 校倉」	(33分)
7月17日(日) 月例映画会	
「前田青邨と日本画の流れ」	(29分)
「土と炎と人と 清水卯一のわざ」	(30分)
7月24日(日) ビデオ鑑賞会	
「正倉院宝物2 千二百年の宝庫 校倉」	(33分)
「正倉院宝物3 国家珍宝帳」	(31分)

いずれも入場無料

今月の映像ギャラリーは、上記の内容で行います。

このうちビデオ鑑賞会では、先月までご覧いただきました「国宝」シリーズに代わり、「正倉院宝物」を紹介するビデオを取り上げます。

東大寺大仏殿の西北にある『正倉院』には、千二百年の歳月を経て、天平の息吹を今日に伝える貴重な文化遺産が保管されています。その存在は、宝物の一部が毎年秋に、奈良国立博物館で展覧されることでもよく知られているところです。8世紀の盛唐文化、さらには遠くペルシャにいたるシルクロードの西の果てにまで、そのルーツが求められるこれらの宝物は、その量と質において、わが国のみならず世界的にも珍重される至宝といえます。このシリーズでは、数々の宝物の姿、文様、質感、色彩に大胆にせまり、天平文化の精華を繊細に映し出していきます。

第1巻は、メソポタミア起源の琴瑟「箜篌」やペルシャのガラスの器「白瑠璃碗」など、正倉院宝物の秘める東西文化交流の足跡を探ります。第2巻では、宝物が保管されてきた校倉の成立と謎、宝物の由来と性格などを紹介します。第3巻では、正倉院宝物の端緒となった、光明皇后が献納した聖武天皇遺愛の品々の目録「国家珍宝帳」をひもときながら、その中の代表的な宝物を紹介していきます。

ミュージアム レポート

ギャラリートーク

4月23日(土)「加賀・能登の名宝」

大乘寺に伝わる文化財をはじめ、県内の禅寺に伝わる頂相など、指定文化財を紹介する「加賀・能登の名宝」のギャラリートークでは、それぞれの寺院の歴史の紹介も兼ねてご案内しました。皆様のお近くのお寺さんということもあり、「このお寺、昔は住職おらんかったよ」なんて、担当者も知らない話も飛び出しました。お寺の宝物については、守られてきた歴史の長さや、人々の信仰の証しであることを考慮しながら理解していただきたい旨を説明しましたところ、皆様大きく頷いてらっしゃいました。ちょうど同時期に七尾美術館で長谷川等伯の「国宝・松林図屏風」が紹介されることもあって、信春(等伯の前名)と左近(等伯の子)の「十六羅漢図」も展示したのですが、「松林図」を見に行くご予約の方も多いようで、熱心にご覧になる方々の姿が印象的でした。

5月21日(土)「甲冑と陣羽織」



トークでは武器・武具だから男性が多いのでは?という思い込みが外れて、女性の鑑賞者が意外と多かったことが印象的でした。百万石祭りの時期に合わせて

の展示で、自然と加賀藩や武具への関心が高まってきていたのかもしれません。

展示では、全体的に黒っぽいカラーの中であって、斬新で大胆な陣羽織のデザインに関心が高かったようです。江戸時代の甲冑の特徴は、変わり兜という多彩多様な兜が盛行した事ですが、加賀具足の場合、比較のおとなしい意匠であり、じっくりと鑑賞する工芸技法の繊細さや緻密さに特徴があるようです。

簡単な解説の後、ご鑑賞の皆様からは、甲冑の重さや着装の順を聞かれ、実用の具であった甲冑の解説では、部分的・抽象的な話だけでなく、身近に感じられる話題の必要も感じて勉強になりました。

キッズ 鑑賞講座

5月7日(土)「石川県立美術館の精華を鑑賞しよう」



小学生を対象とした展覧会鑑賞講座が今年度も開講しました。初回は「石川県立美術館の精華を鑑賞しよう」と題して企画展示室を鑑賞しました。

企画展示室内ではこどもギャラリーで紹介した各展示室のこの一点!を中心に、じっくり鑑賞しました。第7展示室は「源氏物語図屏風」(伝岩佐又兵衛)を屏風の画面の名前などを確認しながら鑑賞。第8展示室内では「雷鳥の図箱」(寺井直次)を、さまざまな技法について、なかでも卵殻技法に使われている卵のみほんを手にした

から鑑賞。第9展示室では「湖畔のはす田」(森本仁平)の場面を考えながら鑑賞しました。

今回の鑑賞講座は7月2日(土)「北出不二雄の世界を鑑賞しよう」です。この機会に私たちとたくさんの美術に親しみましょう。

展覧会回顧

石川県立美術館の精華 - 近年の収蔵品から -



本展は平成6年度以降昨年度までの10年間の新収蔵品670件から選んだ107件に、文化財保存修復工房

の修理品1件を加えての展覧でした。第7展示室に古美術品27件37点、第8展示室、明治以降の近現代工芸44点、第9展示室、近現代絵画彫刻37点という構成です。

収蔵品には大きく分けると購入作品と寄附作品とがあります。全収蔵品2860件中、購入は690件、寄附は1,813件で全体に占める割合は24%と63%。あとの12%は保管替え等で所蔵品となったものです。これをご覧いただくと、ご寄附という、多くの方々のご厚意によって、当館の活動がなり立っているのだということがお分かりかと思えます。

そうした貴重な作品をご寄附いただいた方々への感謝の思い、そして、当館の付属施設として文化財の修理を行っている、石川県文化財保存修復工房の活動の成果を併せ、いわば当館の活動の原点をご覧いただくという展覧会だったわけです。

選定する側としては、あの作品も入れたい、この作品も入れたいと千々に思いは乱れたのですが、展示スペースは限られています。仕方なく多くの作品を割愛いたしました。つらいところです。考えてみますと、自館の作品のみで企画展という期間限定の展覧会を組む機会は、これまでの22年の活動の中では初めてのことでした。悩むのも道理です。

ようやくにして展示を終えた作品群を見て回りますと、「石川県における美術工芸の伝統をふまえ、豊かな美術文化の創造と推進をはかる美術館」、「石川県にゆかりのある作品を中心に収集展示する美術館」という、当館の基本理念が頭に浮かびます。地域密着型としての美術館、そしてそれを如実に物語っている収蔵品群。この10年間の歩みはこの理念どおりであったと確認した次第です。

さて、学芸サイドとしては、これまでの活動をいろいろと振り返り、考えることの多い展覧会でしたが、入館者数という観点からは、ゴールデンウィークという好機であったにも関わらず、実に残念な結果に終わってしまいました。大勢の人に見てもらってこそ展覧会です。自己満足は厳禁です。この点原因を分析し、大いに改善すべきと考えています。(二木伸一郎 学芸専門員)

企画展示室

第16回石川県水墨画協会公募展

7月1日(金)~5日(火)第7~9展示室)

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同2年に第1回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作品を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的個性的な表現による、楽しみな協会展ならではの作品をご覧いただけると思います。多くの方々のご来場をお待ちしております。

入場無料

連絡先 金沢市三ツ屋町八18-3
事務局長 笠井宰州(利久)
☎ 076 - 237 - 6513

第7回石川示現会展

7月8日(金)~11日(月)第7展示室)

日展傘下の洋画団体である(社)示現会は昭和22年10月に(故)大内田茂士・(故)齋原健三の両芸術院会員を中心に31名の創立会員によって結成され、今年4月には第58回展を東京都美術館において開催いたしました。今般の「石川示現会展」は、示現会本展に出品を続けている私達石川県在住の画家が広く県内外の美術愛好の皆様にご鑑賞いただき、ご批評を賜り、私達ひとり一人が努力と研鑽を重ねより良い絵が描けるように、又そのことにより地域文化の発展に寄与できることを念じて発表いたします。示現会の作品は写実を中心とした具象絵画で、過去の発表展でも大変好評を得ております。現在示現会石川県出品者協会に所属している作家は20数名を数え、毎年新入選者を出し増加しています。将来石川県支部の結成も可能となり示現会本展の巡回も見込まれています。本年度の示現会展出品作品を中心に一人2~3点の作品発表となります。ご高覧の上ご指導ご批評いただければ幸いです。

入場無料

連絡先 示現会石川県出品者協会 代表 神田直次
野々市町太平寺2-47
☎ 076 - 248 - 8186

2005 北陸一陽展

7月8日(金)~11日(月)第8・9展示室)

昭和30年7月に鈴木信太郎・野間仁根・高岡徳太郎らを中心として、一陽会は「清新にして深奥なるものの創造に勉励し、新時代の美術を推進せん」「尖鋭なる未完成こそ推薦」をスローガンに掲げ組織され、本年度で創立50年を迎えました。表現方式のいかに問わず多彩な作家群を擁し、抽象と具象の作風が競合する展覧会です。今秋、東京都美術館で開催された第50回記念一陽展の出品作品より選抜された基本作品と北陸支部地元作品の油彩画・アクリル画・版画・彫刻の100余点を展覧します。ベテラン作家の秀作から尖鋭な若手作家の力作をご鑑賞ください。

主な出品作家

大場吉美、佐川文子(委員)、和泉洸、入口ふじ子、

岩永勝彦、浮田正樹、大嶽英治、北嶋三智子、酒井幸雄、清水正男、洲崎幸七、竹田明男、中野久賀子、中本邦男、西山恭申、野中未知子、野村秀久、判三教、松下絹子、安田淳(会員)

入場無料

連絡先 北陸支部事務所 大場吉美方
金沢市粟崎町2-86
☎ 076 - 238 - 3096

第19回日本新工芸石川会展

7月14日(木)~18日(月・祝)(第7展示室)

日本新工芸家連盟は、工芸の原点を見つめ、個々の作家が素材を生かし技術を駆使して、現代に望まれている生活と美との調和をテーマとして制作活動を続けています。石川会展も19回を迎えることが出来ました。会員一同、一層の努力を重ねております。より多くの方々にご高覧、ご批判をいただきたいと願っております。

主な出品作家

北出不二雄、高光一生、川原和夫、得地秀生、利岡光仙、榎木莊平、原田実、戸出克彦、高聡文、柴田博、大井幸子、向瀬孝之、川田稔、松本昭二、高光一雅、金田一司、瀧川千春、瀧川佐智子、堂畑勝二、伊豆蔵幸治、伊藤寿江、山道千草

入場料 一般500円 大学生以下無料

当館友の会会員は、会員証提示により300円
になります。

連絡先 金沢市宮野町ト74 戸出克彦
☎ 076 - 257 - 5951

第9回石川県日本画協会展

7月14日(木)~18日(月・祝)(第8・9展示室)

県内在住の日本画の作家を中心とした会員の、県内未発表作品による展覧会です。各種公募展の枠組みや既存の概念にとらわれることのない自由な作品発表を目指し、会員それぞれが取り組んでいる日本画制作の研究・模索の発表の場、また研鑽の場ともなっています。ベテランから若手まで幅広い層にわたり、広く県内日本画家の作品および近年の活動を知る上で、絶好の機会となっています。

入場無料

連絡先 金沢市若松町126番地 柳橋広司
☎ 076 - 261 - 9602

各地の展覧会 7月

開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

ルーヴル美術館展 7/18まで
横浜美術館(横浜市・045 221 0300)

近代日本画の名匠 小林古径展 7/18まで
東京国立近代美術館(千代田区・03 5777 8600)

華やぐ女たち エルミターージュ美術館展 7/18まで
名古屋市美術館(名古屋市・052 212 0001)

奈良に魅せられた画家たち 7/24まで
奈良県立美術館(奈良市・0742 23 1700)

クールベ美術館展 7/24まで
新潟市美術館(新潟市・025 223 1622)

第2回美術館バスツアー報告

昨年度から始まりました美術館バスツアー、今回は「国宝・松林図屏風を訪ねて」と題し、七尾市の文化財を見学しました。



能登中島祭り会館

5月1日(日)朝8時に金沢駅を出発。天気は曇り。予報では夕方から雨になるということでしたが、なんとか今日一日もって欲しいと願いながら能登中島祭り会館へ向かいました。

ここでは、中島町に伝わる重要無形文化財「杵旗祭り」を人形や映像を使って再現しています。ボランティアガイドの丁寧でユーモアのある説明を受け、勇壮な「杵旗祭り」の映像を鑑賞しました。それからツインブリッジを渡り能登島へ。石川県能登島ガラス美術館に到着。「色彩のうつわ トーツ・ジンスキー展」を開催中で、米国女流作家ジンスキーの初期の作品から新作まで25点を展示していました。学芸員の案内で20分ほど作品や作家について丁寧に説明をいただき、参加者の中には、ガラス作品の製造方法について熱心に質問されている方も見受けられました。

お昼を能登食祭市場でいただいたあと、今回のツアーの目的である石川県七尾美術館へ。「国宝・松林図屏風」を一目見ようと大勢の方が来館しており、大変な混雑でした。嶋崎館長から長谷川等伯についての解説をホールで20分受けたのち、作品を鑑賞しました。参加者からは、館長のお話が聞けて大変勉強になったとの感想もいただきました。

さて、美術館を出た頃から天気が心配になってきました。長齢寺につくと、住職からお寺の由来についてご説明を受けました。前田家との関係が深いお寺で、



七尾美術館にて 嶋崎館長のお話を聞く利家を中心に家族の画像を寺宝としてのこしています。その解説を地域のボランティアの方にいただきました。その頃から心配していた雨が降り出し、屋根の下で記念撮影。しっとりと雨に濡れた遊歩道を10分ほど歩き次の目的地である本延寺に到着。長谷川等伯の生家奥村宗道の菩提寺で、七尾市指定文化財の「木造日蓮坐像」「絹本着色釈迦涅槃図」を公開していました。

山の寺寺院群はゆっくり時間をかけて歩くことができず少々残念でしたが、国宝中の国宝「松林図屏風」を目に焼き付けてきましたので満足できたのではないのでしょうか。予定通り無事に旅行を終えることができました。終わりに、ご参加の皆様と各見学地でお世話下さいました関係各位に深く感謝申し上げます。



長齢寺にて記念撮影

7月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
7/2(土)	キッズ鑑賞講座	北出不二雄の世界を鑑賞しよう (西ゆう子 学芸主任) 小学生対象の講座です。コレクション展示を鑑賞しながらの講座になります。	講義室 コレクション展示室
7/3(日)	月例映画会	墨龍 [加山又造] (27分) 藤本能道の色絵磁器 (33分)	ホール
7/9(土)	美術講座	石川のやきもの (末吉守人 学芸第一課担当課長)	講義室
7/10(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物1 東西文化の国際交流 (30分) 正倉院宝物2 千二百年の宝庫 校倉 (30分)	ホール
7/16(土)	美術講座	石川県立美術館の近代日本画コレクション (西田孝司 学芸専門員)	講義室
7/17(日)	月例映画会	前田青邨と日本画の流れ (29分) 土と炎と人と 清水卯一のわざ (30分)	ホール
7/23(土)	ギャラリートーク	古九谷・再興九谷 (谷口出 普及課長) 展示室内で行われるため、コレクション展の入場料が必要です。	コレクション展示室
7/24(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物2 千二百年の宝庫 校倉 (30分) 正倉院宝物3 国家珍宝帳 (30分)	ホール
7/26(火)	キッズ体験講座	親子で鑑賞会 彫塑に挑戦! (小学1・2年生対象)	講義室
7/28(木)	キッズ体験講座	親子で鑑賞会 工芸に挑戦! (小学3・4年生対象)	講義室
7/30(土)	キッズ体験講座	親子で鑑賞会 油彩画に挑戦! (小学5・6年生対象)	講義室

7月の全館休館日は19日(火)~21日(木)です。

キッズ 体験講座は事前の申し込みと参加費が必要です。詳しくは前号6ページをご覧ください。



重要文化財 **四季耕作図**

久隅守景

生没年不詳

江戸 17世紀 縦146.0 横336.0 (cm)

久隅守景は、生没年や画歴など不明な点が多く、近世初期に活躍しながらも謎の多い絵師の一人です。しかしながら、国宝「夕顔棚納涼図屏風」(東京国立博物館蔵)や、本作をはじめとする一連の「四季耕作図屏風」など確かな足跡を残しており、この時代を代表する絵師の一人に名を連ねています。興味深いのは、この北陸の地に「守景筆」とされる絵画が多く伝えられていることです。守景は探幽に学んだ後、金沢へ下ったとされることから、こうした言い伝えを持つ絵画がのこされるのでしょうが、当地にはたいへん「馴染み深い絵師」とも言うことができます。

「馴染み深い」も一つの理由として、守景の描いた画題が、ありふれた日常風景を主題としたものであったことがあります。「夕顔棚納涼図」にみる男女と子ども姿のいい、「四季耕作図」にみる農村の光景といい、これまでの絵画になかった身近な光景が主題となっています。この頃の絵画のテーマといえば、例えば、権力者の生活空間を囲むに相応しい中国の故事に由来を持つ絵画や、権力の象徴としての動植物など、日常の光景とは離れたものが主でした。この「四季耕作図」もそもそもは、権力者に対して、農業や養蚕の苦勞を伝える中国の「耕織図」に始まるのですが、守景はこれを見事に和様化し、穏やかな農村風景として展開させたのです。

季節は左隻から右隻へ流れ、左隻には耕起と苗代(第三・五扇)、草取り(第一扇)、右隻には稲刈(第六扇)、稲束運び(第五扇)、脱穀(第四扇)、籾摺り・風選・俵締め(第三扇)の様子が描かれています。加えて、本図には橋を渡る鷹狩の一行や、茶店の光景、鶏飼の様子などが描かれ、「四季耕作図」の新たな姿を模索したことがうかがえます。

9月23日(金・祝)から10月23日(日)まで、「特集 古美術優品選」(第2展示室)にて展示予定です。

親子で美術鑑賞をしませんか？

昨年度より、当館では教育活動の一つとして「キッズ プログラム鑑賞講座」を設け、小学生とその保護者を対象にコレクション展示を鑑賞しています。今年度は、年に7回土曜日に行い、月ごとに特集が組まれている展示作品を中心に、クイズを交えながら鑑賞しています。作品がどんな道具、素材を使って制作されるのかということも、実際に見たり触れたりすることでより深く理解していただけたと思います。図版や映像でなく、本物の作品を見て親子で語り合うことはとても素晴らしい体験になると思います。

参加される子供たちには、パスポート(写真参照)を配布し、講座に参加するとシールがもらえるという仕組みです。もちろん、親子で鑑賞する際は無料ですし、毎回すてきな絵はがきのプレゼントもあります。この機会に親子で美術鑑賞をしませんか？皆さんのご来館をお待ちしています。



(表)



(裏)

キッズ 鑑賞講座パスポート



コレクション展示室で鑑賞

次回のコレクション展

婚礼調度の美 (前田育徳会展示室)
古九谷・再興九谷名品展(後期)(第2展示室)
夏休み 親子で楽しむ美術館～きになるかたち～ (第6展示室)

7月22日(金)～8月21日(日)

休館日：7月19日(火)～21日(木)

石川県立美術館だより 第261号

2005年7月1日発行

〒920 0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>